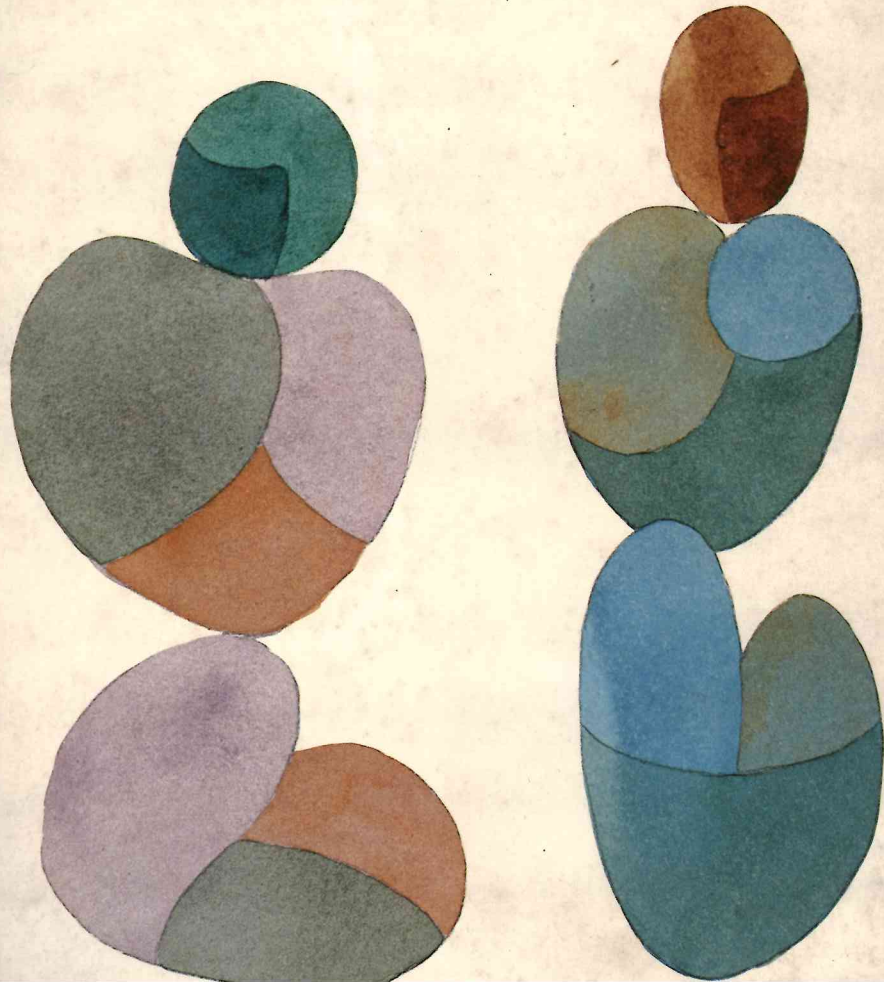


湖上

'82
6

「詩壇」創刊準備号
草壁焰太編集 五行歌宣言



湖上・昭和五十七年五月十日発行(隔月十日発行)第四卷第三号(通卷二十号)

あなたの心に 幸福をはこぶ 三冊の詩集



幸福は野に咲いて

聖愚庵詩夫

長い長い庶民の歴史の中から、哀しいつぶやきが聞こえてくるようでした。(高橋玄洋)

四六判 上製本 二四〇ページ 一三〇〇円

やさしい

メフィストフェレス

柳瀬丈子

軽々と自由に舞う言葉。時間になり、旗になり……この安らぎは何だろう。(山本七平)

四六判 上製本 一七六ページ 一〇〇〇円

男たちよ

河田日出子

淋しく、深く、大きな人間世界を切り開きましたね。河田さん……(川本 彰)

四六判 上製本 一一二ページ 八〇〇円

定価 三〇〇円 (送料二百円)

市井社

〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町1丁目3番地
片倉ビル603 TEL 03-267-7601

雪よりも白く

田中克己

なくなった父の遺言だったろう。

亡母の五十年祭を

継母の首唱で行なった。

これも亡くなった母方の叔母が

姉の愛誦したのは「雪より白く」だったとい

このあいだ亡くなった竹森トヨ牧師が讚美歌

五二一番だとお教え下さった。

トヨ先生と母はウィルミナ女学校の同窓で

むかし愛誦されたが今はうたわれず

そのもととなった詩篇五一篇は

教会で礼拝ごとに連誦している。

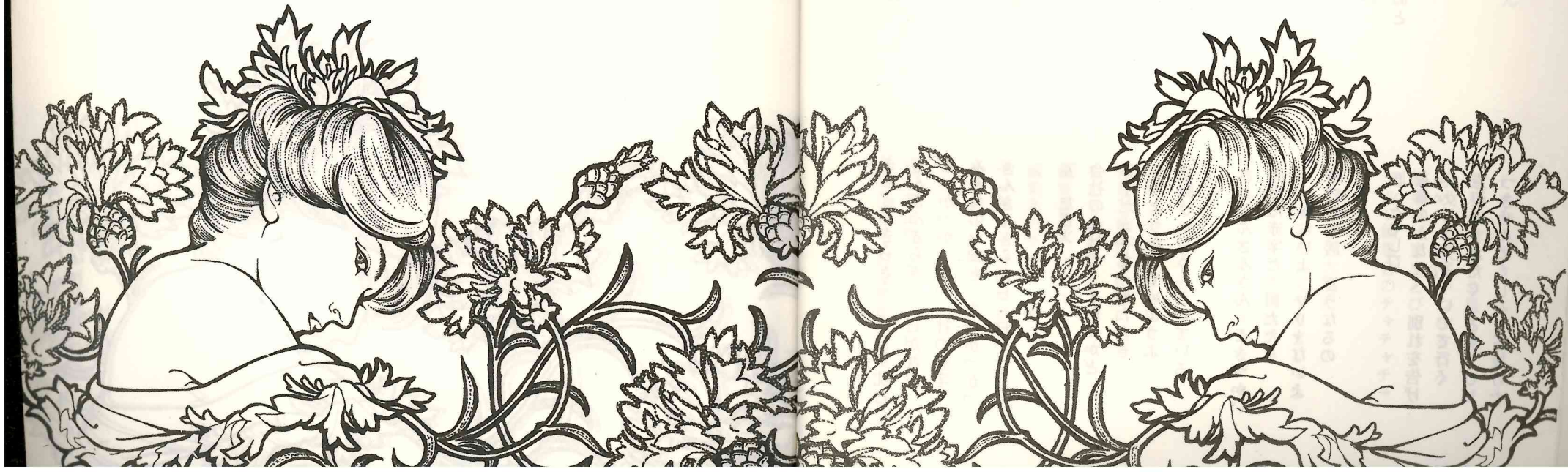
この世の濁りはますますひどく

いつの日か現世に天国が来るのだらう。

わたしはうなだれまた目を挙げて

主よ主よ早く召したまえと祈っている。

雪よりも白くわが魂がなるために。



編集後記

◎詩をまとめてから、すこし寂しいように思ったので、相米、高橋清、宇津宮の三人の若者の詩を、雑誌の各部に突出させてやっとなんとした。作品の上で若者の力を借りたと思つたのは、これが最初である。

いま、かとう、河田両氏の詩集ができてきて机上にある。なかなか香り高い詩集になった。柳瀬氏の本はどうだろう。喜びと期待で胸わくわく、今年になつての支離滅裂の多忙さも、これで報われたという感じだ。忙しいのはいい。あらゆる産物は、こうして生れてゆくのだ。

(焰太)

◎前回の編集には、カゼをひいたために湖上の女性陣から感謝状を贈られてもした。なんでワシが湖上ワーストに入らなアカンネン。泣けてくるワ。読者の皆様、季節外れのカゼには気

をつけまひよう。せやけど中年ベストワーストはなんやネン。大事な人が抜けてしもうてるヤン。小田実や井上ひさし、黛敏郎はどうしたん？ワシはこの三人が好き？やよつてに憤慨してんヨ。読者の皆様はどないに思います？

(凡)

◎飯田堀というのは大変きたない堀に見えるがこの飯田堀の水面上土手に並んだ桜の花びらが一斉に散る一日は大変美しい。特に美しいのは風が強く、太陽が嬾やかな光を落すちようどお昼どきなのだが、それはもうたとえようもなくセクシーな景観で見る者をほつてはおかない。その証拠といつてはなんだが、あれは尋常ではなかったが……この湖上の編集を手伝つたわすかばかりの期間に例の光景を三回も目にしたのだ。そう、あの光景——あれはまっこと異常な光景だったきに。たとえセクシであるにせよ、それがまっ

うな理性を乗り越えてあまりにも灼熱してしまつたにせよ、まさか桜の木をなんとなく抱き寄せる人間が実在するとは信じられない事だ。たぶんあれは夢だったのだ。たぶん。なんとなくつかれた。

(佐藤清)

◎編集が終わつて、夜遅くアパートの部屋に帰つて、みゆきのテープをカセットに入れて、時刻表の唄を聞いて、お湯をわかして、ウォッカのお湯わりをつくつて、行きつけの本屋のおじさんに頼んでおいためぞん一刻の第二刷版を開いて、オレも一刻館にひっこしたいと思つて、ギターをすこしひいて、ルーシーの約束を開いたけど読まなくて、エリア88のメカをながめて、猪木とドリーのなつかしのあの試合のアルバムを見て、諸星大二郎のような物語を書きたいと思つて、そろそろ眠くなるのです。ZZZZ……(きよし)

◎花冷えの四月初めの片倉ビル

お知らせ

▼詩壇五月詩話会(第一回)

〔とき〕五月二三日(日曜)
PM四・三〇〜八・二〇
時間厳守お願いいたします。
〔ところ〕学士会館分館(地下鉄丸の内線本郷三丁目駅下車、徒歩五分、赤門そば)

☎ 〇三一八一四一五五四一
〔会費〕一五〇〇円(軽食つき)

〔内容〕国柳瀬、河田、聖愚庵三詩集批評会 湖上作品批評

▼詩壇投稿規定

詩、五行歌、童話(二〜二五枚) 小説(五〜三〇枚) エッセイ、紀行文、評論(それぞれ一〇枚以内) 投稿券を貼付してください。

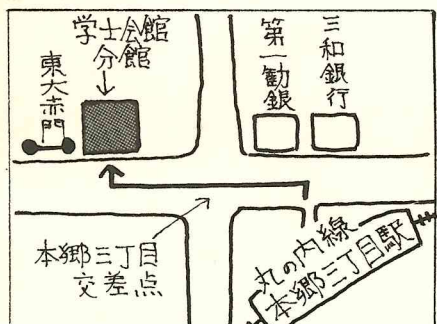
次号(詩壇創刊号)の選者は平松三千雄の予定です。

原稿用紙はB4判四〇〇字詰を御使用ください。投稿原稿は返却できませんので、あらかじめ

めコピーを取つてからお送りください。

〔宛先〕〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町一―三 片倉ビル603号 市井社「詩壇」編集部

▼購読御希望のみなさまへ
本誌購読御希望の方は、市井社「詩壇」係まで御連絡ください。購読料は半年分一五〇〇円一年分三〇〇〇円(送料込み) 郵便振替：市井社、東京〇―二一三三八



フランス語を話せない奥様のパリ生活記

パルレ・パ・フランス

木村かよ子 著

市井社より大好評発売中!!

B6判 188ページ 580円

湖上

第4巻第3号通巻20号 1982年5月10日発行

編集人—草壁焰太 発行人—中林三十三

発行所 株式会社 市井社

〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町1丁目3番地 片倉ビル603号

TEL 03-267-7601 郵便振替 東京0-21338

印刷人—金田 勲

印刷所 サン紙工(株)

〒101 東京都千代田区神田須田町1-3 大木ビル5F

TEL 03-255-0461(代)

定価 300円
送料 200円